

マリの女性とシアの木

—シア・バター生産組合による生活改善と女性の地位向上—

香川大学経済学部 教授 園部裕子

③女性たちの生産組合

ここまでは、シアの木と、シア・バターの作り方を見てきました。今回は、シア・バター生産者の女性たちによる協同組合の活動を見てみましょう。協同組合により、バターの生産は効率化されて生産者の収入が安定するとともに、家族の生活が改善され、組合員である女性たちの役割が、社会的に認められるようになってきています。

もともとマリでは古くから、バンバラ語で「トン *tòn*」と呼ばれる自発的な組織が、農村の協働労働などの多方面で見られます。近年では海外の NGO を参照に、社会開発を目的とする住民組織も結成されるようになってきています。農村の女性による「トン」としては、サハラ以南アフリカに広まる「トンチン」と呼ばれる互助講が、マリでも行われています。日本の頼母子講のように、小グループで集まり、毎週、毎月など決まった時に決められた金額を出し合い、各メンバーが順番にその回の合計金額を受けとります。このようなボランタリー・アソシエーションの伝統もあり、1992年の民主化後は、さらに多様な組織が活動するようになったと言われます。

ところで、シア・バターの作り方は家庭内で受け継がれてきましたが、バター製造そのものは、実は共同で行われるものではありません。実の収穫からバターの販売まで、女性たちは基本的に一人で作業を行います。バターの攪拌の間に水を足してもらうなど、物理的に一人ではできない作業を互いに助け合うことはあっても、採ってきた実を持ち寄って作業を一緒に行うことはしません。

このような、ある意味で個人主義的ともいえるバター製造を、部分的にはあれ協働で行うのが、生産組合です。マリ各地の生産者が組合を結成するようになった経緯は、さまざまです。上記のような「トン」の伝統や近年の住民組織の活発化もあり、少しでも生活を良くしたいという女性たちが集まって結成します。

そのきっかけの一つが、一次製品の価格の低下などによる収入減です。例えばシアの生育地であるマリ中・南部は、マリの主要な輸出用製品のひとつ、綿花の栽培が盛んな土地でもあります。綿花栽培は伝統的に男性が担う仕事とされ、その収入で家計を支えてきました。ある組合の女性たちは、夫たちの収入が安定していた頃は、お金の使い方や意味さえ考えたことがなかったと言います。ところが 2000 年頃に綿花の価格が急落し、家計を支えてきた男性の収入に頼れなくなってしまいました。そのことが、女性たちが準備していた組合活動を本格化させるきっかけになりました。

またバマコ近郊の組合では、ある村の女性たちがシア・バターの価格を上げるにはどうすればよいかを話し合い、2003 年頃に自分たちで組合を立ち上げました。そこから活動は拡大し、2014 年には、周囲の 21 の村にまで広がっていました。

このように 2000 年代に入ってから、いろいろな経緯で生産組合が結成されるようになっていきます。生産者は参加費を払って組合員になり、先述の「改良バター」の製造法を学びます。そして作業を効率化するために共同で粉砕機を購入したり、バターの質の向上のために、色や匂いから質を鑑定する方法を学習したりするなど、製造技術の向上に努めています。また村長と交渉して村有地を無償で借りたり、国際 NGO の支援を得たりして、自前の製造所を建設したところもあります。

組合の活動は、バターの製造にとどまりません。砂漠化や都市人口の拡大により森林資源が減少するなかで、シアの木も例外ではありません。マリの一般家庭では炊事に炭や薪を使うため、家屋などの建築資材も含めて、都市近郊では大量の木材が必要とされます。そのためバマコ周辺では、保護されるべきシアの木まで伐採されつつあると言います。そこで組合では、薪製造、農業をはじめ、漁業関係者や狩人など、木を伐採するあらゆる人びとに対して、シアの大切さについて啓蒙活動を行っています。組合の中には、各村の村長や伝統的な指導者である長（おさ）に直訴して、シアを植林するために土地を提供してもらったところもあります。

こうした活動により、組合員女性の生活には、さまざまな面で改善が見られるようになっていきます。最大の成果は、シア・バターの価格の上昇です。組合による「改良バター」のみならず、組合に参加していない女性が作る伝統的なシア・バターも含めて、すべてのバターの定期市での価格が上昇したと言います。このようにして増えた収入を、女性たちはまず、家族のために使います。特に子どもの授業料や衣服代、家族の医療費を賄うことができ、家族全員の生活条件が向上しました。もちろん、自分のためにも使います。ある地方都市の組合員たちは、かつては一枚の服を破れるまで着ていたが、組合活動でよく町に出るようになってからは、町の女性のように新しい衣服を仕立てて着替えるようになった、と嬉しそうに語ってくれました。

ほかにも、多くの変化がもたらされています。女性たちの収入が家計にとって欠かせないようになり、男性たちとの関係も変わったと言います。例えば子どもの進路や将来のことなど、かつては夫が一人で決めていたことも、今では夫婦で話し合って決めるようになった家庭もあります。ある組合員が病気の男性のために薬を買ってあげたところ、村中の男性から尊敬されるようになった、という村もあります。さらに、村長らとの交渉で発言権を得るようになったリーダーが村落議会選挙に立候補し、組合員らの投票で当選して、初の女性議員が誕生したという組合も 3 件でています。

マリの女性にとってシアは、なくてはならない木です。バター製造を通じて協働することで、女性たちは収入を増やして生活を安定させることができ、それが人として、社会の一員として、自信をもつことにも繋がっています。こうした試みがさらに広がれば、マリの農村の生活は、ますます豊かになるのではないのでしょうか。

読者の皆さん、これからもぜひ、マリの女性たちの活動を応援して下さい。



かまどのある作業場とシアの若木（生産組合 D）



作業場裏手の干し場（生産組合 C）



組合員が持参したバター の鑑定作業（生産組合 B）



石鹼製造のデモンストレーションをする組合員たち（生産組合 E）



できあがった石鹸（生産組合 E）



製品の直売所（生産組合 B）



小売り用作業のデモンストレーションをする組合員（生産組合 E）



聞き取り後の集合写真（生産組合 F の各村代表者、職員男性と筆者）